

# まじい

No.41



## 立春の日に願いを 込めて

鶴岡市下川の善宝寺は、海の守護神・竜神の寺として四季を問わず多くの参拝者が訪れ、境内には五重塔をはじめとする貴重な建築物（国登録の有形文化財）があります。

今年2月4日、人面魚でも一躍有名になった、竜神が身を沈めたとされる、「貝喰池」に注ぐ竜王沢から流れる清水を汲み、竜神様に捧げる立春の恒例行事である、「お水取り」が行われました。立春とはいえ、春まだ浅く雪の舞う中、多くの信者が参加し、願いを込めて「お水」を捧げました。

（太田 裕徳

広報編集委員長）

# 鶴岡農業の現状を知り、今後の方向性を探る 農業者等との 意見交換会を開催

農業委員会が主催し、毎年開催しているこの意見交換会は、「農業委員会等に関する法律」の規定に基づき、農業の最前線で活躍されている方々の意見・要望等を集約し、本市の農業施策に反映させることを目的に実施しているものです。

平成30年2月7日、グラランドエル・サンを会場に、「平成29年度農業者等との意見交換会」が開催されました。今冬はまれにみる豪雪でしたが、市議会産業建設常任委員、市認定農業者会議役員、両JA関係者、各農業団体等の代表者、農業委員、農地利用最適化推進委員など40数名から参加していただき、3つのテーマで意見交換を行いました。

当日は意見交換に先立ち、(株)庄交コーポレーション・代表取締役社長の國井英夫氏より『インバウンドとアグリビジネス』と題して講演が行われました。



國井英夫氏

## 【一講演概要一】 庄交コーポレーションの インバウンド推進策

本社は、「地元感謝される事業展開を」を方針として

おり、今はグループ会社の事業を見直して多くの分野において改善を図っている。その分野として、「庄内の地域観光資源を再発見し、発展をリードする」という目標を立てて「庄交価値創造研究所」

を設立し、これまで運営してきたバスやタクシー事業、宿泊施設や、観光・販売事業等を取りニューアルして観光産業の成長戦略を考えている。

その戦略の一つがインバウンドの推進であり、地域観光収入の増加や雇用の創出、地域経済の活性化など、地方創生の軸の一つとして地域発展に大きく寄与するものと考え、その一環として、高速バスとホテルのリニューアルで運行やバスターミナルの整備とホテルのリニューアルでショッピングモールとの利便性の向上を図る施策を行ってきたほか、鶴岡ICそばの物産館にも地域の食材を取り扱う店をオープンさせるなど、外国人のみならず、多くの国内観光客にも喜んでもらえる企画を展開している。

このように自社の多くの事

業を総合的に見直し、インバウンドを推進していくことで、庄内の観光産業の発展が期待できる。

## インバウンドと アグリビジネス

近年日本を訪れる外国人観光客が大変多くなっているが、なかでも農業体験は外国人に大好評であることから、日本型アグリツーリズム・グリーンツーリズムは持続可能な需要を創生することが全国的に期待されている。

幸い庄内には恵まれた観光資源・食が多くあるので、それを目当てに訪ねてくる外国人観光客に、食と、その食を提供する宿も同時に考えてはどうかという提案をしているが、今、民泊ブームで規制緩和がすすんでいるうえ、民泊は大きな設備投資もいらず始めやすい。そこに提供する地元食材はその後の販売ルート拡大にもつながってくるのではない。

また、お客さんと荷物を混在させて運ぶ「貨客混載」も

規制緩和されることから、ドライバー不足の輸送業界の穴を埋めることができる。農家にも運送業界にも共にメリットがあるので、当グループにおいてもプロジェクト発足を準備している。

これからも農業者のみならずと一緒に地域振興に取り組んでいきたいと考えていますのでよろしくお願ひします。

## 3月のテーマの 意見交換会

講演会に引き続き、「農地の集積集約」、「担い手の育成確保」、「食と農をつなげる取り組み」をテーマに意見交換を行いました。

### 農地の集積集約について

#### 【農業委員会より】

農地を担い手に集積することについては、鶴岡市では現在かなりの面積が集積されている。しかしながら、団地化など集約が進んでいないうえに、集積が進むほど農地が分散される傾向にある。解決の方策は、地域内の話し合いでの交換であるが、今後このよ

うな取り組みがより重要になってくる。そこで、29年度に藤島地域の八栄島地区で集約化のモデル事業を行った。

【参加者からの意見】

■相続権が分散されており、中間管理事業での契約ができない。法律上の問題の解決を目指してほしい。

■藤島地域のモデル事業において地域の事情もあり、すべての地区からの情報交換会参加とはならなかった。生産コストの低減にもつながるので、今後もこのような取り組みは進めていきたい。

■農家として大事な問題であると思えていたが、もっと勉強していきたい。

■黄金地区の高坂集落では世代交代が進み、集約の機運が高まったことから、5haを1か所に集約できた農家もある。担い手の育成確保について

【農政課より】本市において最も力を入れているのは新規就農者支援である。市では完全の態勢を取っているが、経営指導や生産・販売はJAや県の普及課が担う部分である

と思うのでチームで支援していく体制の構築が必要である。就農相談は年50〜60件ほどあるが、市ではアドバイザーを置くとともに、支援事業に対応した研修環境も整備している。



【参加者からの意見】

■大切なことは新規就農者もしっかりと農業で暮らしていることを示していくことであると思うが、なかなか後に続く人が現れてくれない。また、生産指導の連携が部署間で取れていない部分があった。

■新規就農者に対して、生産指導や、農機、農地の情報が少ない。どこに聞けば良いのかもわからない。結果、農地

も借りられずスタートがとて大変だった。

■農福連携として農業を担いたいと思っている人もいる。農地の情報や営農・販売指導をしてくれる人がいないか等の情報がほしい。

■親元就農は難しいと感じている。市、JA、農業委員会での情報共有ができていないのではないかと。

■市ではアグリメールを配信しているが、これが難しい内容である。プレスリリースではなく噛み砕いて情報を提供してほしい。

■若手のネットワーク組織が必要。また、消費する側の情報を調査するなどの食と消費者をつなげるマーケティング戦略が必要である。

【農政課より】水田フル活用による園芸振興を図っていく。重点品目を絞り産地形成を進めていきたいので、提案してほしい。また、山形大学と連携して循環型農業のスマートテロワール構想をスタートさせている。その活動の中から

食と農をつなげる取り組み

加工野菜の産地を作りたい。同時に市では在来作物の振興を図っている。しっかりとした調査を行い次へのステップにつなげたい。



【参加者からの意見】

■伝統料理を伝えるために高校生に料理講習をした。これからの食文化の継承に努めた。 (募集型よりも良い。)

■食育・産地消費専門委員会では、鶴岡産そば粉を使ったそば打ち体験や、保育園でのおにぎりづくり体験などの活動をしている。

■規格外の生産物も有効に使える農家所得を上げることになる。

■カントリーエレベーターの

視察・見学を受け入れており、常にお米の安心安全について伝えるようにしている。

■大企業が地方に生産の委託をしている。これからは新規参入の形態が変わってくる。

また、加工向けの需要も増えるので、所得増大のため付加価値を高める検討も必要。

今回も参加者から、鶴岡の農業を取り巻く課題や方向性について活発な意見が出されました。その中でも、情報網の強化についての意見が多く出されました。市、JA、農業委員会が知恵を出し合い、農業者のさらなる活躍のために取り組む必要があると感じました。

また、講演では國井社長をリーダーとして前向きに進む会社の取り組みを聞く機会があったことは、私たち農業者にとっても、本当に意義深いものでありました。

ご参加いただいたみなさん、國井社長、ありがとうございました。 (農業委員・石塚治己)

# 平成29年度農地集約モデル事業

## 「情報交換会」を通じて 借入耕作地の交換が実現しました

昨年の12月12日に市役所藤島庁舎会議室において、平成29年度農地集約モデル事業「情報交換会」が行われました。

本市での担い手への農地の集積はかなり進んでいるものの「農地の集約」という点からみると進んでおらず、担い手に農地が集積されるにつれ、ほ場が分散していくという傾向があります。

生産コストの削減を図るうえで、このように分散されたほ場を集約する必要があります。

農業委員会では、分散したほ場の解消を図りたいと考えている農業者も少なくないことから、平成29年度に試験的に藤島地域八栄島地区で「情報交換会（交換の話し合い）」を行いました。

事業の実施にあたっては、市農政課、藤島庁舎産業建設課と農業委員会が、8月初旬からJAや土地改良区、農地所有者や専業農家、兼業農家

からの話を聞く機会を設け、事業の進め方を検討しました。聴き取りした内容からは、耕作地の交換は一部の地域で自主的に実施されたことはあったものの、行政主導で行われたことはなく、生産コスト削減の観点から耕作地を交換したいと考えている農業者は大規模農家を中心に相当数あり、また、農地の所有者も「適切に耕作してもらえれば、借り手は問わない。」という考えも一般的になってきたことが伺えました。



分散ほ場の様子(八栄島)

ほ場条件の違いや、有機栽培を行うための制限などハードルはあるものの、まず、希望する農業者が、交換できる

ほ場から実施し、農地集約化の取り組みに一石を投じようと、事業実施に一步を踏み出したものです。

### 情報交換会の様子

当日の情報交換会は、藤島八栄島地区の担い手に、事業の主旨・進め方等を説明したところ、9経営体の参加があり、農業委員、農地利用最適化推進委員、やまがた農業支援センター職員および市農政課、藤島庁舎産業建設課、農業委員会事務局職員が同席して開催されました。



開会行事の後、参加者の自己紹介をし、その後、ほ場の状況を示す図面を囲み、自分の耕作している土地の特徴や条件など、自由に話し合ってもらいました。

その場には農業委員、農地利用最適化推進委員も同席し、必要に応じての助言もあり、意義のある活発な情報の交換が行われました。

### 3・5組の交換が成立

情報交換を行った結果、互いの条件が合致した、3組7筆（約3・5畝）を交換することとなり、所有者の意思確認したうえで、2月には農地中間管理機構を通しての貸借が成立しました。

今後は参加者からいただいた感想や意見等を参考に、今後の進め方などを検証し、段階的に、全市で取り組めるよう検討していきます。

## 事務局より重要なお知らせ

平成30年4月受付分より、農地法3・4・5条の申請・届出、農用地利用集積計画書の毎月の締め切りを次のとおりに変更します。申請書等を提出される場合は、ご注意をお願いします。

☆毎月20日締め切り⇒毎月15日締め切り

### 新規就農者のみなさん!『アグリランドバンク(新規就農者支援型)』 が農地の確保をサポートします!

事業に協力をいただいている支援農業者・団体です。  
(農地の貸付けに協力して下さる農業者・団体:2月末現在、敬称略)

- |                         |                    |
|-------------------------|--------------------|
| ■(有)鶴岡協同ファーム(鶴岡・民田)     | ■(株)アシスト(鶴岡・本田)    |
| ■(有)田和楽(藤島・小中島)         | ■ 上新田農事組合法人(藤島・長沼) |
| ■ 井上農場 代表・井上 馨(藤島・渡前)   | ■(株)ハグロファーム(羽黒・川代) |
| ■(農)あさひの輝き・まんてん(朝日・東岩本) |                    |
| ■(株)あつみ農地保全組合(温海・湯温海)   |                    |

◆支援内容、条件など詳しくは、事務局にお問い合わせください。

### 「経営改善実践システム(新たな農業経営指標)」が変わります

農業経営者の皆さんが自らの経営改善のために活用できる「経営改善実践システム」が、平成30年4月より、インターネットがない環境の中でも使用できるアプリケーションに変わります。(一度ダウンロードは必要となります。)このアプリケーションは一度ダウンロードすれば、これまで同様に簡単に経営の自己チェックを行うことができます。

詳しくは、農林水産省/新たな農業経営指標のページをご覧ください。

# 鶴岡市農業者年金協会 研修会を開催

## ～楽しく研修して交流を深める～

去る2月23日(金)に、毎年恒例の鶴岡市農業者年金協会研修会が、榊引温泉ゆ〜タウンを会場に開催されました。

当日は会員86名のご参加をいただき、会場はほぼ満席状態でした。

研修会は農業委員会の渡部長と会長のあいさつで始まりました。農業者年金の優れた制度を紹介しながら、新規就農者や女性農業者にも、将来のことを考えてぜひ加入を勧めてほしいというお話がありました。

続いて第1部の研修会で

○×クイズで、農業者年金についての理解を深めました。その一部をご紹介します。皆さんも正解を選んでください。

**問1** 加入期間が1か月でも年金を受給できる。  
○か×か

正解は○



**問2** 国民年金の保険料が一部の額の納付が免除となった場合、農業者年金の資格は喪失となる。  
○か×か。

正解は○

いかがでしたか。みんなは分かりましたか。研修会当日は、正解を重ねた6人の方に、すてきな賞品が渡されました。



第2部は、天中健晴陽(てんちゅうけん・せいよう)さんをお招きしての『歌と笑いでつづる健康と安全』というテーマでのワシマンショーでした。「一笑一若」「一怒一老」を合言葉に活動しているのと、お話に納得したり、大爆笑したり、そうかと思えば歌を聴いて感動したりと、天中健晴陽さんのステージは時間が過ぎるのも忘れるくらい楽しいものでした。



第3部は、おましかねのお楽しみ抽選会です。榊引特産のスパークリングワインや、プレミアムジュース、和菓子など、たくさんのプレゼントが準備されており、発表を待つ時には、会場からドキドキ感が伝わってきました。

今年参加できなかったみなさん、来年も盛りだくさんの企画でお待ちしておりますので、ぜひご参加ください。

(農業委員 重松美鈴)

頼れる制度で  
豊かな老後を!

# 農業者年金

あなたの老後生活への備えは十分ですか？

年金は家族一人ひとりについて準備することが大切です。

老後の備えは国民年金プラス農業者年金が基本です。

国民年金  
第1号  
被保険者

年間  
60日以上  
農業に従事

60歳未満



3つの要件に該当すれば、どなたでも加入できます

## ★少子高齢化時代に強い

加入者が積み立てた保険料とその運用益により年金額が決まる積立方式の拠出型年金です。加入者や受給者の数に左右されません。

## ★終身年金 80歳までの死亡一時金あり

年金は生涯受け取ることができます。80歳前に亡くなられた場合は、80歳までに受け取れるはずだった、農業者老齢年金額の現在価値相当額が死亡一時金(非課税)としてご遺族に支給されます。

## ★税制面で大きな優遇

支払った保険料の全額(最高一人あたり年間80万4千円)が社会保険料控除の対象になります。支払われる年金にも、公的年金等控除が適用されます。

## ★保険額は自由に選べ、いつでも変更可能

必要とする年金額の目標に合わせ、月額2万円から6万7千円まで千円単位で自由に選択できます。また経営状況や家計に合わせて保険料の変更も可能です。

## ★農業の担い手には保険料補助

一定の要件を満たした意欲ある担い手は、保険料の2割、3割、5割の補助が受けられます。(この場合、保険料は月額2万円に固定されます)

## ★奥様も単独で入れます

農業者年金の加入には農地の権利名義は要りません。

また家族協定を結ぶと、補助が受けられます。(一定の要件があります。)

《詳しい内容やご相談は、農業委員会事務局・各分室または農協の各支所までお願いします。》

# 第21回全国農業担い手サミットinやまがた プレイベントが開催されました

全国農業担い手サミットが本年度に、本県で開催されることに伴い、そのプレイベントとして、第21回全国農業担い手サミットinやまがたプレイベントが1月31日に山形市の山形国際交流プラザで開催されました。



五十嵐一雄実行委員長

鶴岡市からは鶴岡市認定農業者会議の理事等15名と事務局が参加し、総勢約200名でプレイベントを盛り上げました。大会主催者代表として五十嵐一雄大会実行委員長（本市認定農業者会議会長）から挨拶があり、引き続き大会の協力度制や県民への周知方法について協議されました。また同時に大会テーマの発表があり、「咲かせよう農の花！実らせよう豊かな日本！」と樹氷のように輝き、たくましい未来へ」に決定しました。

続いて、第20回の高知での全体会及び地域交流会の報告と、全国優良経営体表彰を受けた2経営体の講演があり、最後に「地域を牽引する農業経営者を目指して」をテーマにパネルトークが行われ、地域農業の将来像や、今抱えている問題等が話し合われました。

農業委員会では、鶴岡市認定農業者会議をバックアップする形で担い手サミットを応援していきます。

## 農地等の貸付・売渡に関する農地の情報を公表しています

農地の貸し付け、売り渡しを希望する農地の情報を公表（農業委員会のホームページでご覧いただけます。）しています。

公表されている農地を借り受け、買い受けたい場合は事務局または各分室へお問い合わせください。

## 全国農業新聞を購読しませんか

暮らしと経営に役立つ農業情報を週一回お届けします。

購読料 1ヶ月700月(税込)

◎購読のお申し込みは農業委員会事務局又は各分室まで

## あしがき

待ちわびた春、雪国の私たちにとっては新緑の芽吹く頃、多くの農家は秋の美りへ向け、希望と期待と忙しさが心地よい時期です。

新人農業委員の私ですが、地域の状況、情報提供など農業に役立つ、わかりやすく見やすい広報作りに頑張っています。地域のみなさんのご協力をよろしく願っています。

（農業委員）  
佐藤みほ

- 鶴岡分室 25-2111(代表)
- 櫛引分室 57-2114
- 羽黒分室 62-2111(代表)
- 朝日分室 53-2111(代表)
- 温海分室 43-4616

鶴岡市農業委員会事務局

〒999-7696 山形県鶴岡市藤島字笹花25(鶴岡市藤島庁舎内) ☎64-5868(直) FAX.64-5846  
<http://www.city.tsuruoka.lg.jp/sangyo/nougyouinaki/index.html>